

## 第18回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年5月24日（木） 10:00-12:10
2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、山崎委員
  - (2) 有識者  
常田 国立天文台長
  - (3) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）  
高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、山口参事官、佐藤参事官
  - (4) 関係省庁等  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長  
宇宙開発利用課宇宙利用推進室 庄崎室長  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所  
國中所長

### 4. 議事要旨

#### (1) 宇宙科学・探査の今後の推進方策について

JAXAから工程表実現に向けた課題と対応について、文部科学省から国際宇宙探査の検討状況についてそれぞれ説明があった後、宇宙科学・探査の今後の推進方策について議論を行った。

宇宙科学・探査の今後の推進方策については、本日の議論を踏まえ、座長一任で内容をまとめ、次回の宇宙産業・科学技術基盤部会にて報告することとなった。

委員からは、以下のような意見等があった。

#### <JAXAからの説明について>

○プロジェクトを提案する機能の強化の課題を解決するための対応について、従来の仕組みではどこに課題があり、そこをどう工夫することでプロジェクト創出、フロントローディング強化につなげていこうとしているのか、といった指摘があった。

○フロントローディング強化にシフトしていくために必要な費用や人員規模がどれくらいなのか、来年度予算において予算化が必要な項目が何かを具体的に示し、予算化できなければ何が削られることになるのかなど、明確に示していく必要がある、といった意見があった。

#### <文部科学省からの説明について>

○科学探査の観点から国際宇宙探査をどのようにとらえるかについて、意見交換があったほか、科学との両立の観点から「プログラム化」に対する宇宙科学研究所の考え方を明確にしなければならない、といった意見があった。

<宇宙科学・探査の今後の推進方策の議論について>

○工程表 27 に「参考」で S L I M、M M X が記載されているが、工程表 27 に S L I M、M M X を正式に位置付けないと政策的な議論ができないのではないかと、といった意見があった。

○M M X は、N A S A に高く認知され、N A S A の火星プログラムでの役割を担っている。S L I M の国際的地位もこれから非常に上がってくる。この 2 つを政策的にきちんと位置づけ、積極的に進めていくこととし、工程表 27 でもきちんと扱ったほうがよい、といった意見があった。

以 上